

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972100457		
法人名	社会福祉法人 幸知会		
事業所名	グループホーム ヘブンリートータス		
所在地	上三川町下神主231-1		
自己評価作成日	令和5年8月14日	評価結果市町村受理日	令和5年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和5年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・年間計画として予定を組み、季節感を感じて頂ける行事の提供が行えています。・レクリエーションの一環として認知症の緩和につながる期待される回想法を取り入れた授業を行い、入居者どうし思い出話が行え意欲的な場が作れています。・施設の畑で草むしりや水やり、野菜の収穫。収穫した野菜を使った料理作りなど、入居者と職員一緒に行う事でより信頼関係作りにつながっています。・吹奏楽団の定期来所による演奏会、図書館より本の貸し出し等、外部協力による交流が行っております。・ブログやインスタグラムで普段の様子や行事などを発信し、施設での生活の様子を知って頂く機会を作っております。・少人数だからできる個別対応、家族と密に連絡を取り合うことで入居者の様子を細かく伝え、家族と施設一体となった支援ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当法人は高齢者や子ども、障害者分野において様々な事業を展開している。事業所は本館が置かれている敷地内の一角に設置され、古民家風の建物で日本庭園のような庭が広がっている。・利用者一人ひとりに合った役割や楽しみを引き出す働きかけを行い、利用者が張り合いをもって生活できるように支援している。
 ・労働環境が整備され、週休3日制・年間休日156日・残業ゼロを実現している。職員の定着率が高く、勤続年数も長く、入居者への支援も安定している。
 ・職員の質の向上を目指し、社内試験や管理職との面談を定期的に行い、キャリアアップが図られている。資格取得支援として、費用の補助や勉強会を催し働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	午後の職員ミーティングで経営理念と指針の唱和を行い職員のベクトルを合わせ、その上で入居者の情報共有やケアに付いて話し合い対応を行っています。	職員は毎日午後に行われるミーティングで経営理念や指針を唱和している。定期的に理念等を確認する社内テストが実施され、全職員に意識付けを図っている。日頃から理念と指針に基づいたサービスが提供されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが落ち着きましたが地域の方との交流はまだ再開出来ておりません。まずは施設へボランティアの方を誘致し交流が出来ればと思います。	コロナ感染症が5類に移行したが中々地域との交流はできていない。年に2回、地域の吹奏楽団が来訪し敷地内の庭で演奏会が行われた。入居者は、演奏に合わせてロズさんたり、手拍子を取って楽しんでた。月に1回、図書館の本を貸し出しに図書館の職員が訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症カフェの場として提供をしていましたが、コロナ禍の影響で現在は実施出来ておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で少人数での開催や感染症の為実施出来ない月はありましたが、頂いた意見を施設内で共有し支援へ活かしております。	会議の参加者は民生委員や社会福祉士事務所所長、役場職員、法人管理職、事業所職員である。会議では情報交換や意見交換が行われている。会議の中で外部との交流について意見があがり検討中である。会議で話し合われた内容は議事録にまとめられ職員に回覧し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、意見交換や助言等を頂いています。ただ、施設外で行われる会合等へは参加が出来ておりません。今後は機会があれば参加し連携をとっていきます。	現場の実情を役場担当者に適宜報告し、ケアサービスの理解に努めている。町主催の勉強会や意見交換会があったが、コロナ禍のため開催されなかった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の取り組みとして、人権擁護委員会があり、数名の職員を委員として参加。委員会での情報を施設内に共有、身体拘束について学ぶ機会を作り、認知症ケアに取り組んでいます。	法人全体で月に1回、人権擁護委員会を開催している。委員会の職員が講師となり内部研修を行っている。全職員が同じ内容を学べるように、同じ内容の研修を月に2～3回行っている。職員は受講後に感想を提出することで、身体拘束をしないケアの理解と知識の定着が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会へ参加し虐待に関連する知識等を共有し防止に取り組んでいます。また、ケアや対応について些細な事でも話し合える様に、ミーティングの場で意見交換が行えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会や研修に参加し学ぶ機会が持っています。又、社会福祉事務所の方へ相談し支援に結び付けれる様に社会福祉事務所へ相談を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容の読み合わせを行えています。入所後も必要があれば来所時や電話、メールにて説明を行えます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は運営推進会議に入居者家族に参加して頂いていましたがコロナ禍と言う事もあり、少人数実施の為機会が少ない状況です。その分、LINEや電話、来所時の短時間ではありますがご意見を伺い、必要があれば改善に努めています。	入居者からは日々の暮らしの中の会話や関わりから意見や要望を聞くように努めている。家族からは面会や受診で来訪した際に聞いたり、通信機器を用いて聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人、事業所内それぞれで毎月会議を開催しています。また、人事評価として、年2回の個人面談を実施し、その際に職員一人ひとりの意見を聞く時間を作っています。	法人の全体会議や事業所での会議が毎月開催されている。会議で水道光熱費のコスト削減方法について話し合わせ、職員の意見を導入する方向で検討が進められている。年2回、管理者と職員が面談する機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を取り入れ、個人の自己評価を確認しながら面談を行えています。また、社内キャリアアップとして年数回の試験を実施し、意欲向上に繋がっています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や勉強会へ参加を行っており、個々の力量に応じスキルアップに繋がる資格取得支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	以前は県内外で行われている研修等に参加していましたがコロナ禍でここ数年参加出来ておりませんでした。先日、上三川包括主催の研修会に参加。今後も機会があれば参加しサービス向上に努めて行きたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時に雰囲気を見ていただき安心できる環境を感じて頂いていると思います。入所後も不安は残ると思いますので、本氏の要望に耳を傾けながら適宜職員間で共有を行い、安心できる環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ、申し込みの段階からお困りごとの確認と傾聴を行っております。また、入所後も電話連絡やブログ等を通して入所された方の様子をお伝えする事で安心してお任せ頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から伺った様子、本人の様子を見た上での入所。その際に何が必要か？希望に添える様に努めています。また、現状のサービス外で必要を感じた際は相談し家族、入居者が希望する形になる様に職員間で共有を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と日々を過ごす中で近い関係が築けており、日常のお手伝い、行事への準備段階から参加して頂く事で協力し、支え合えながらの日常が築けていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ブログを通して日常の様子、状態変化があった際の連絡を早めに行う事で様子確認での来所、早期の受診検討ができており、家族と協力しあいながら支援ができております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々からの電話の取次ぎ、手紙のやり取りは継続して行っておりますが、地域の方との交流は実施出来ておりません。交流の機会を持てるように役場等の情報収集に努めます。	友人や家族に暑中見舞いや年賀状を送ったり、携帯電話やビデオ通話を利用して関係継続を支援している。入居者が今まで暮らしてきた地域とのつながりが続くように、町内の行事を把握するように努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係を続けられるように、懐かしい場所に出かけたり、お墓参りに出かけることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両ユニット間での行き来で入居者同士交流が持ててます。ただ、個々の性格やその日の気分、状態で関係が上手く築けず、トラブルになる事もありますが、大事にならない様に職員で柔軟に対応を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方へは状態確認を適宜行い、お困りごとがあれば施設利用時の状況や対応をお伝えしケアの参考になる様に情報提供を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって住みやすい、居心地の良い環境で過ごせる様に配慮しております。そのためにも、日常の様子を職員間で共有し、改善があれば提案しながらよりよい生活が出来るように努めています。	入居者一人ひとりの言葉や思いを、日々の行動や表情からくみとり職員間で共有している。意向の把握が困難な場合には家族から聞いて、本人本位で考え話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や家族からの聞き取り、本氏の状況を配慮し施設で出来るサービスを提供しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前情報を基に日々の生活で把握出来た情報を職員間で共有、こまめに記録に残す事で本人の心身状態の推移の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、家族の意向を考慮し、周りの職員を始め関係者の意見を反映させた介護計画書の作成を行えています。また、日々の状態を観察する中で適宜ケアの変更と家族への連絡し計画書の更新を行っております。	介護計画は計画作成担当者が、本人や家族に思いや意向を聞き、職員間で話し合って作成している。入居者の身体状況等に変化が生じた際は、モニタリングに基づいて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や様子、対応等を記録し職員間で共有を行えています。また、気付いた事はその都度の話し合いやミーティングにて対応の検討を行い取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に対し応えられる様、居宅支援事業所や地域包括支援センター、社会福祉事務所、役場と連携を図り、協力を頂ける様に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流の一環として、毎月の図書館の貸出ボランティア、吹奏楽団の定期演奏会は実施出来ていますが、他以前のような取り組みは現状実施出来ておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、家族が決めた病院へ受診して頂き、主治医へ情報提供を行えています。また、受診前後で家族への情報共有、医療機関との連携も図れています。	入居前からのかかりつけ医を本人や家族の希望で継続できる。通院は家族対応としているが状況によっては職員が対応することがある。通院時には家族に普段の様子やバイタル情報を書面で渡し、医療機関に提供している。コロナ禍で往診が可能な医院に変更する方が増えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化があれば看護職へ報告し指示を仰ぎ適宜対応が行えています。夜間帯においても、何かあれば看護職へ電話し適切な対応が取れる様な体制がとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療機関へ入院中の状態確認を行い施設内での情報共有。また早期退院が出来るように、入院先医療機関と連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時説明、家族来所時に家族としての希望を確認しております。終末期においては、職員間で統一した対応が取れる様、本人と家族の意向反映させたケアを行える様に努めています。	契約時や本人の状態が変化した時に、本人や家族の意向を踏まえて事業所が対応できる支援方法を話し合っている。医療的な処置が必要な場合は法人内の移動を提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを改定、連絡経路や対応方法を見直し職員間で周知を行えています。定期的な事故対応訓練を行う事でいざという時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会主催で避難訓練を実施しています。避難経路や対応に付いて、周辺施設と連携が取れる様に共有を行い協力頂きます。	年2回、消防署立ち合いの下、日中・夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。敷地内にある法人の事業所と合同で入居者と一緒に行っている。BCPは策定されており有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴などプライバシーに配慮した介助を心掛けています。また、日々の声掛けや居室への訪室、食事提供、就寝時など配慮しながら対応に努めています。	介助が必要な場面では本人が嫌な思いをしないような声かけや周囲に気付かれない対応を行っている。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように目立たずさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人が希望している事、入居者間での会話へ耳を傾け潜在的な希望等、職員間で情報共有し提案を行う事で自己実現が来ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団レクリエーション時は声掛けを行い、殆どの方が参加頂いています。他の時間は各々で過ごして頂く中、散歩や手伝い等、個別に提案させて頂いています。他、入居者から要望があれば可能な限り対応を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重し、季節や気温等を配慮し提案を行っています。難しい要望や気難しい方には職員を変え、時間を置き、本人の希望に添えるような対応を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は入居者の状態に応じてお手伝いして頂いています。好みの物や季節の物等、一緒に昼食や行事食を作る事で食への関心、楽しみにつながっていると思います。	入居者と職員と一緒にテーブルを拭いたり、野菜を切る等、食事の準備や片付けを行っている。食への関心や楽しみが持てるように、入居者とともに畑で野菜を作ったり、行事食を献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量について記録を行い、職員間で過不足の共有に努めています。摂取量に変化がある際はその都度調整を行い、場合によっては管理栄養士へ相談し対応を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛け、介助を行えています。また、就寝前には義歯を預かり洗浄し翌朝お渡ししています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンと排泄表での実施記録を確認し適宜、声掛けや誘導を行っています。また、誘導時はプライバシーに配慮した声掛けをしております。	排泄表に記録された入居者一人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレに誘導している。トイレでの排泄を大切にしながら、身体機能に応じて紙パンツやパッド、オムツを使用している。夜間時のみポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に効果のある体操を取り入れ、適度な運動も行っております。また、こまめな水分補給も行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日置き、週3回の入浴を目安に入浴を実施しております。入浴順番はトラブルが起きない様に配慮を行い、入浴拒否が見られる方へは時間を置き、職員を変え不安なく入浴が出来るように対応しております。	週3回、本人の意向に沿いながら個人浴槽で入浴が行われている。本人の好きな曲を流したり、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を取り入れる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせて、昼寝や就寝時間を決めていただいております。日中の状態で横になった方がよい場合は提案させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報として個別ファイルで管理、全職員が把握できる様な体制を取っています。内服後の変化や状態確認を行い、変化が見られる時は記録に残し、必要があれば看護職へ支持を仰いでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話の中で入居者間で共通の話題で盛り上がり、周りを巻き込んだ会話の和ができまわっています。また、行事で一人一人に楽しんで頂ける様、個々へ話題を振りながら楽しむ時間を提供出来ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で実施が出来ていみせませんが、本年度外出支援として外食を実施し楽しんで頂きました。今後は家族を巻き込んでの外出支援や地域の方との交流を図れればと思います。	コロナ感染症が5類に移行してから、入居者と職員で近隣の商業施設まで出かけて外食を実施している。入居者から「宇都宮のLRTに乗りたい」との希望があり、今後は家族や地域の方と協力して出かけられるよう検討している。	家族との関わりや地域の方との交流が持てるような外出が実現することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時説明として金銭は施設管理として家族へ了承頂いており、出納がある場合は職員にて対応しております。預かっているお金の過不足が出ない様に、現金出納がある場合は2名の職員で確認しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、ご自由に連絡を取って頂きます。所持していない方は要望に応じ、施設の電話を使用させて頂いております。手紙が届いたら本人に渡し希望があれば返信対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や飾り付けを行い、季節感を感じて頂いております。全体が見渡せるように高い物は配置せず、外から光を多く取り入れる事が出来る施設となっています。	ホールは天井が高く、天窗から自然光が入り、穏やかな雰囲気がある。入居者と職員と一緒に作成した季節に合わせた作品が飾られている。畳のスペースには掘りごたつがあり、寛げる場所となっている。窓からは庭に咲いている四季折々の花が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのユニットに掘り炬燵があり、テレビを觀賞や畳で足を延ばし寛いで頂けます。ホールにはソファがあり、一人で新聞を読んだり、皆さんで談話されたり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に慣れ親しんだタンスやテーブル等の家具、仏壇等を持参して頂いております。写真や飾り等で室内をレイアウトし、居心地良く過ごさせて頂いております。居室へ戻る際、迷う方へは名札の張り出しを行い安心して過ごされています。	居室には家具調ベッドやエアコン、カーテン、押入れが備え付けられている。使い慣れたタンスやテーブル、仏壇が持ち込まれている。家族の写真や思い出の品が飾られ、本人にとって居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々でゆっくりとした時間を過ごせる様、日々状態観察し自立した生活が出来るようにしています。限られた生活スペースの中で自ら実践できるように創意工夫し環境を作っていきます。		